



京都大学

「国際レベルのインフラマネジメントの推進」



## 教員

教授	山田 忠史	客員教授	山田 邦博
名誉教授	小林 潔司	客員教授	井上 智夫
		客員教授	吉岡 幹夫
		客員教授	関 克己

## 目的

我が国は、現在、人口減少・少子高齢化が進展する一方でグローバルな競争の進展にさらされています。また、既存ストックの老朽化や災害リスクの高まりも指摘されており、厳しい財政的な制約の下で効率的・効果的に社会資本の整備を図っていく必要があります。特に、国土保全、安全・安心の確保、離島等の条件不利地域の自立・発展・活性化の支援等については不断の取り組みが求められますが、厳しい財政状況の中では、政策資源を重点的に投入することが求められており、「選択と集中」が重要とされています。

本講座では、このような状況を踏まえて、①大規模又は広域的な災害リスクを低減させ、②産業・経済の基盤や国際競争力を強化し、③持続可能で活力ある国土・地域づくりを実現し、④社会資本の的確な維持管理・更新を行っていくという重点的な目標に向かって、どのようにして社会資本整備を進めていくべきなのか、社会資本の在り方から公共政策の考え方や手法について、実際の実例を踏まえながら啓蒙・研究・普及活動等を行い、国土マネジメントに携わる実務者・技術者・研究者（産・官・学）の知識の共有及びコラボレーションを図るとともに、この分野を支えるに相応しい幅広い視野を持った人材の育成を行います。

## 活動成果の紹介

### 国際標準に合った新時代のアセットマネジメントの推進

我が国では、高度経済成長期に整備された膨大な社会資本の老朽化が顕著となりつつあり、今後の維持管理・更新費の増大が予想されています。このため、社会資本を有効に活用し得られる価値を最大化するとともに、効率的・効果的な維持管理・更新を実現する必要があります。

すなわち、社会資本の管理者は多くのアセットを保有・管理し、アセットから様々な価値や便益を生み出していますが、その管理組織が目標を達成するためには、組織の様々な活動を調整し、アセットからより大きな価値を生み出していく必要があります。これがアセットマネジメントです。

アセットマネジメントの意義と重要性は国際的にも認識が高まっており、既に2014年には、アセットマネジメントに関する国際規格がISO55000シリーズとして発行しています。アセットマネジメントシステムに対する要求事項を規定したISO55001は、第三者認証の対象となるため、今後、国内外においてアセットマネジメント分野での事業展開を行うためには必要不可欠な規格となります。実際に、国内においても仙台市の下水道事業などがISO55001の認証を取得したのを皮切りに、2017年3月の時点で30の企業・団体がISO55001の第三者認証を取得しており、認証件数は今後さらに伸びることが予想されています。

このような状況も踏まえ、我が国における国際標準に合ったアセットマネジメントの普及定着を促進するための公的な母体の必要性を指摘されたことにより、一般社団法人日本アセットマネジメント協会（JAAM）が2017年に設立される運びとなりました。現在、JAAMは、①最新のアセットマネジメントに関する情報提供、②アセットマネジメントに関するセミナー、フォーラム等の教育研修事業、③ISO/TC251の国際規格開発活動への参画等を行っており、認定アセットマネージャー国際資格検定事業や組織のアセットマネジメントシステムの成熟度評価などにも活動を展開する予定で活動を行っています。

これと軌を一にして、JAAMによるアセットマネジメントシステムの普及活動を支援するとともに、システムの段階的な高度化を図るための技術的な研究組織の必要性が指摘され、これを受けて京都大学経営管理大学院ではアセットマネジメント研究所（AMI）が2017年度に創設されました。将来に向けて、大学においては先進的な研究成果の社会資本管理への適用可能性が追及され、管理の現場においてはアセットに関するデータ整備の現状と進捗を踏まえた現実的なシステムの提案と導入が進むとともに、不断にシステムの高度化と普及が図られる環境の整備に繋がっています。